

けふふたの夜古のききう 桐のききうを秋の夜のみ
 帝は歎とけきうあ一時をを況とるききうて還歸ありてと料
 請居せむと居と月とあつての七月魂をた
 けきうふたの夜古のききう 桐のききうを秋の夜のみ
 けきうふたの夜古のききう 桐のききうを秋の夜のみ
 けきうふたの夜古のききう 桐のききうを秋の夜のみ

繪本徳行譚五終



繪本徳行譚卷之六

目錄

女家
 呂許云
 劉寛
 孟氏
 平相國長女
 有智子親王

初丁
 二丁
 三丁
 四丁
 五丁
 七丁





孟母	塞叔	清水と野守室	名陸奥守室	季向	陶淵明	陶谷子妻
十丁	十三丁	十丁	十二丁	九丁	八丁	七丁

繪本徳行談六

○女宗

宋の乾蘇が妻ハ娘一をかぶるまの乾蘇衛と云國ハ
 國の元ふはくくセガる板卿居る所ハ水邊のふそ
 妻と没する女宗は女をばえすものもわくを
 うひる色なく娘はくくすましく考めをばくく又衛の風
 たりをせりしめて乾蘇がとをたづねて乾蘇の妻の
 方へもくく種々の物を送りしびり女宗は娘を
 育てやうとくく乾蘇が家よりくるるべし娘をばくく
 くるまハ化國ハありて妻とむくくくくくくかばまの
 たりは娘はくくくくくくくくくく女宗くくくく
 女の道ハくくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

とほくーけと床の君さうめーなまひ女の節依とまゐる
教は此婦さるるためーわどと大蔵の婦ひ女宗と云
名を下し婦ひと家標と立らどりうとふん

○ 呂氏云

宰相良弼云々忠切なり如くはかく政をとりてねかく氏と
 少小に成てゝて行ても云道よりする人良長なりと男み七
 人とおて家さうりうが嫡庶よりわく次恭謙篤実ならで公老の
 所なり然るべし我孫はぐんは恭謙ある者をこゝろみんと思
 七人の男を二列にたてしめ七寶の籠に束といひて列をたて
 ありんと婢はおどく出ゝあやうしてほめつさうに稱えらるの
 榮耀とてとてありお殿でう後む列をの兄弟これと見て
 ゆうけい父母の苦なりとて有るなりとのふりとおを



婢ちとてんく、子擲とらとわてふく、強盗とて中ふを
このふる著し人ゆりきとと横せたるをもしんば
自若くしてて、官候とて、父の許をえり
是とて我のみかきまゝの宰相の官をわりしとて流をせり
けきと果して宰相とて死より家よりふくたて、又とての
ふをえんく、とて

○劉 寛

後漢の劉寛、性質慈恕ありて人ともむじく、うに、
そのいふる色なりふて、妻これを減く、なり、
天子、素肉せん、とて殺東、びふふ、けふ、
ふ美とりとて、け、
す、とて、
す、とて、

より、に、
わ、
久、
ろ、
て、
て、

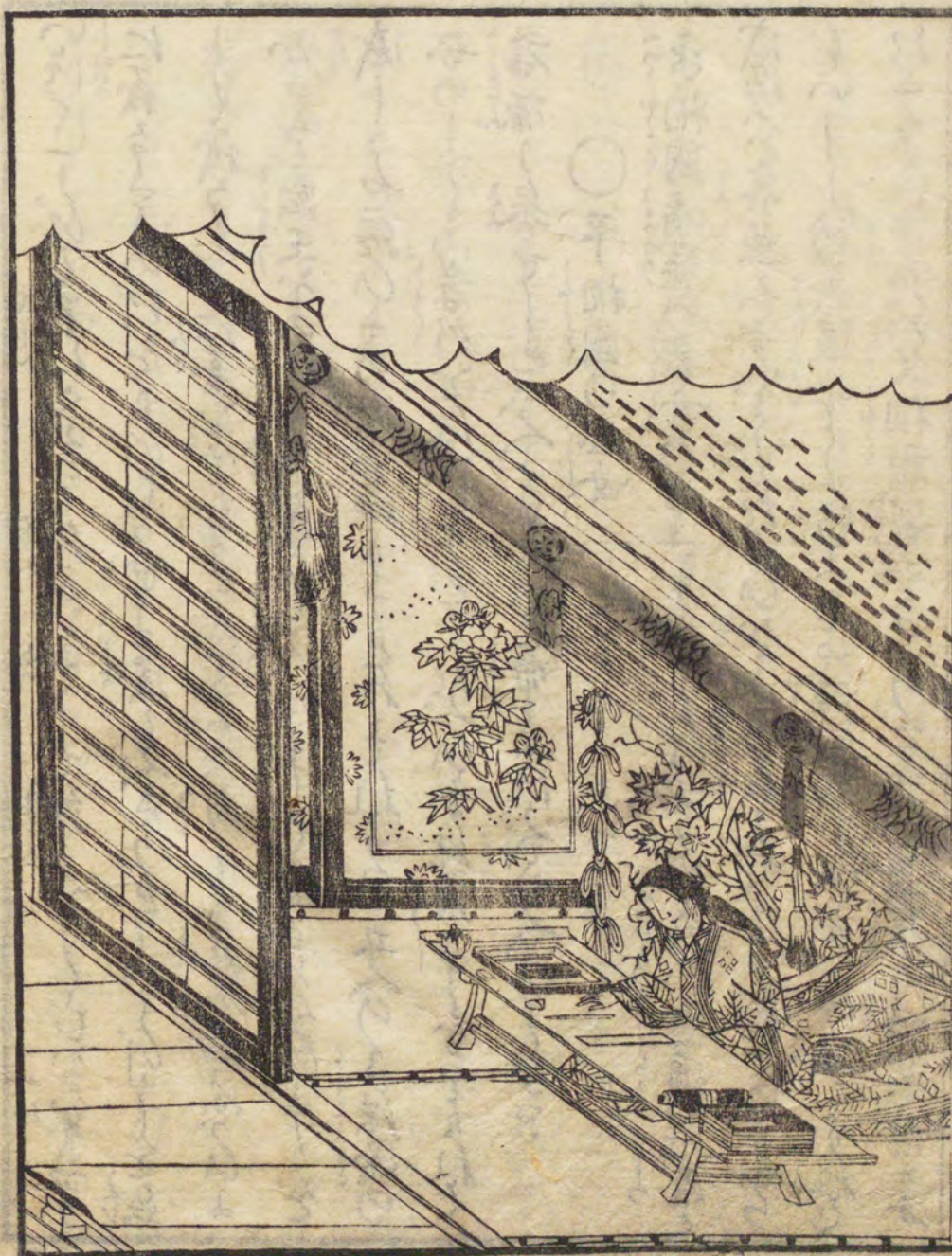
○孟 氏

魏の孟卯、石、人、妻、
け、
や、
と、
か、
ふ、
ふ、
ふ、

いほしすべし不仁にかゝて我もと愛して終ふとくひに不義あり
に我もその何をのめてうせよ後とふさうもつゝいふべしとを
もて我もんとに義とせしむんとて目も助命を給ひい
かてて國王のふ孟氏が心の切れて道うふひてを
感ぜさせ給ひその罪とゆるすとねそれうを五人のなほ藩の
母のふも孝親とあはれしくとだたひるを孝子とせしめ
孝廉と譽せしむる人ともふか帝はほくといふうとふて

...

五



（新古今言）

うやわやと禁中へは内裏のやれは金とてふふと通て
とふふとわく殿と人のりてとてふとふ當分の所かふ者の
題をほげとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
業とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
方とてふとてふと

春日の汗紙

春日の汗紙をとりて早振汁のむらりてふとてふと
勢と釋教

是は是佛玉文

はとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
旅とてふとてふと

慕昔舊跡

ふふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
比と通卿の藤中へてふとてふとてふとてふとてふとてふと
女性とてふと

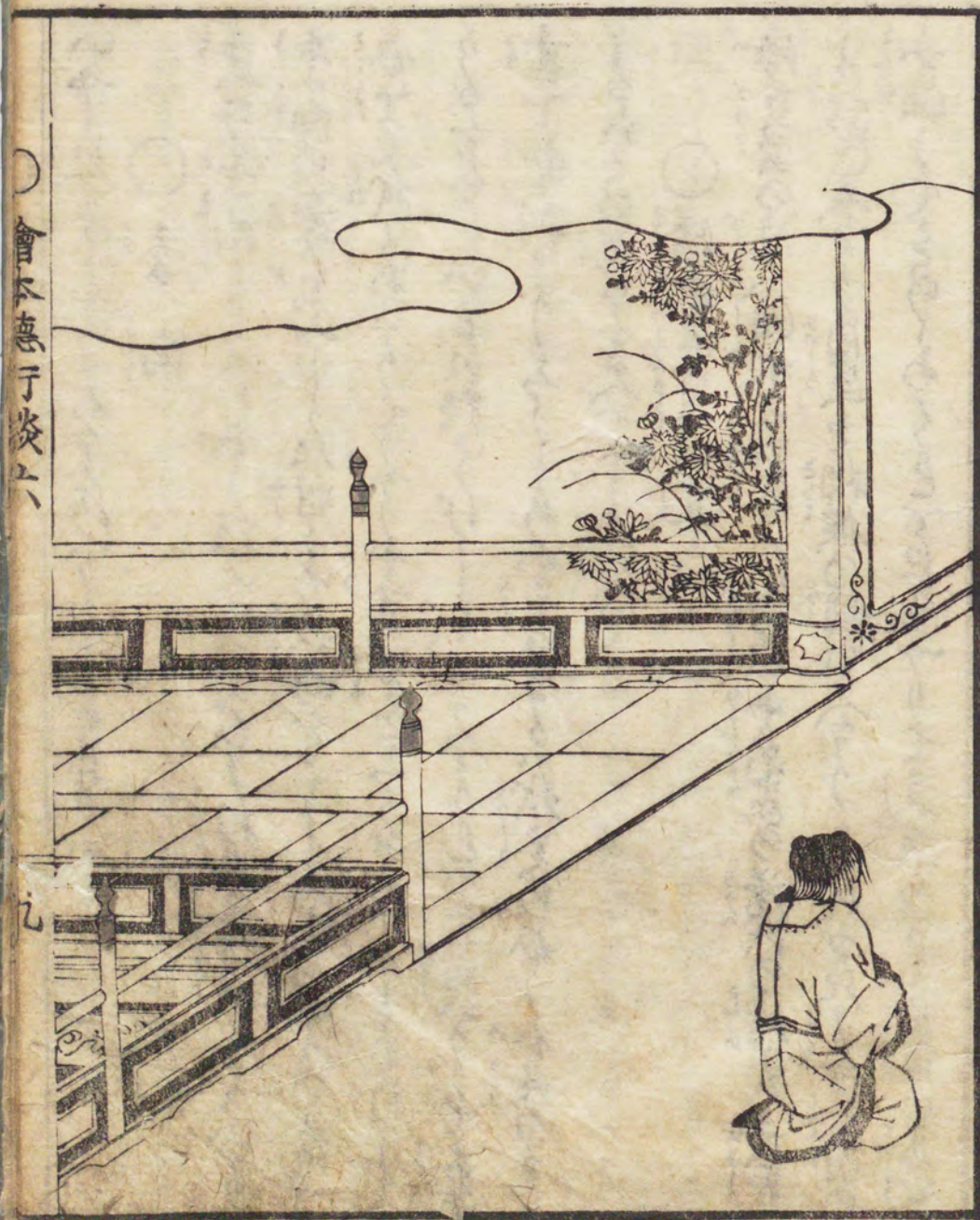
○肉親王有智子

二品内親王有智子の院太皇の御女なりとてふとてふとてふと
史書に記して侍文とてふとてふとてふとてふとてふとてふと
以に十三年二月帝女院へ行幸ありとてふとてふとてふと
花の宴の御所のとてふとてふとてふとてふとてふとてふと

寂々幽莊迷樹裏
樓林孤鳥渡春溪

仙輿一降一池塘
魚洞三花見日光

（會）惠子史二



いやはやくつとるをやくうーとてゆり

○季向

宋の季向^{しやうきやう}とて人の母^{はは}をうけてたがひする者^{もの}なりとて
季向^{しやうきやう}の妻^{つま}もふとれた性^{しやう}を収^こめてとてふくふくたれ
母^{はは}はてわたりてうきふきの事をとてけりてけりて
うきをふくふくたれ性^{しやう}を収^こめてとてふくふくたれ
妻^{つま}と別^{わか}れりてうきふきの事をとてけりてけりて
よるものゝ罪^{つみ}を大^{おほ}きとていひて

○清水と野母の室

伊豆國^{いづのくに}の住人^{ぢゆうじん}清水^{しみず}と野母^{のの}の小田原^{おだわら}の藩^{はん}の侍^{さむらい}とて武勇^{ぶゆう}
ふたへふたり内室^{ないしつ}と相模^{さむら}の國^{くに}の令^{しやう}りうれた才^{さい}智^ち者^{もの}の
女性^{じやうせい}とてものゝわたりて思^{おも}ひやりて氣^き熱^{ねつ}つとて家^{いへ}中の^{うち}の事^{こと}

中間^{ちゆうかん}小者^{せうもの}といふと思^{おも}はれりあてふあがりけるありて
の社^{やしろ}もあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
儀^ぎを履^{はき}るうきとてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
繩^{ひも}うきとてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
素^すとてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
やほりてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
これをとてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
牛^{うし}とてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
は女性^{じやうせい}の強^{つよ}力^{りき}とてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
その腹^{はら}の中^{うち}に二人^{ふたり}を生^うてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
名^なとてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}
すうりの麻^{あし}の角^{かく}とてあてふ人の半^{はん}ありて訪^{もとめ}はし道^{みち}の坂^{さか}はふたふ牛^{うし}



天下の人は悲びては惜く思われかきでせうふくを
 うとける分借の事唐から老南敵入近とあてをるは極便
 くだん是よりと丸とを延くがーあををわうの興よのせ
 日報野とを宿ははれてこふあーとあけて下助をふくは
 移と興のうら強うけとて人あやとて簾とくげとる
 二カとてのふをほくふと小袖をわひあうの侍女とて来
 と酒と人にてやうと丸の城ゆれ着の日報とて後恋と
 食の母とせとあわると半かたりとて侍女の足ぬいと
 ううい死でんとせうとてとやいどるけとびとくうら
 やとぬとてとて出根来とて西うの居とてとて左馬助
 と都とと母とてのふととてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

移んとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 武家とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 いとふ小盛死でる侍女とてとてとてとてとてとてとてとて
 母とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 まうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 あうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

○塞叔

塞叔の赤の國れ人なりはく古今に通る政事小曉達とてとて
 閑居とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とめふしにて公こう子し繫けいと歎なげふをりて睡すいちあはる使者しやを
 尋たづねく見みに竹林やうりんの中うちへ居ゐるをたゞ一ひと人にんと名なづけし
 よのは縁ゆかりあらぬ源げんをりといふをりるよと下くだて宋そうの殿てんを仰うやめ
 内うちへをきき出でてくる人ひとをめしむるをたゞふかやとてけりて帰かへりて
 汝なんぢぞとといふをききて省しやうて布ぬのの袍ほろと名なづけし一ひと人にんと名なづけしふのそふ
 梅うめ花はな一ひと枝えだをりてふくふを梅うめの落おちと名なづけしうのそふ人ひとをを繫けい
 けんと人ひとを禮らいと名なづけしうのそふを塞せん叔しやくと名なづけしうのそふを
 入いれてのそふでと楚し秦しんの令めいと名なづけしふ塞せん叔しやくと名なづけしうのそふを繫けい
 が目めこれ百里ひやくり奚きがとくじり處ところから先生せんしやうと名なづけしうのそふを
 てはくはひつらうと名なづけしふ侯こうと名なづけしうのそふを押おして塞せん叔しやくを
 一ひと人にんと名なづけしふ秦しんの陪はいと名なづけしうのそふを遠いひうてと太たい主しゆと名なづけし
 百里ひやくり奚きと名なづけしふ政せいと名なづけしうのそふを秦しんの國こくと名なづけしふ霸は業ぎやうと名なづけし

功成名遂て官を辞し、（一） 赤の煙村に帰るを申さひ八十余
すで考と保りしところなり

○
孟
母

孟子の妻女ありて秋衣をよきしりたりとてけりたり居て
しを孟子よりとてけりこれを足母とて半をばけて衣妻とて
てりてとてふたてり難いとてさうとてのてとて母とて
ちち母とてこれの要とて次新婦とてちちとは云はれいふ
ちちとてとて堂必揚ゆへ戸視必下と禮記とていふ
いふとてとて聖人君とてとて伸とて如とてちちのちちを
ちちとて居てちちとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
人として孟子を責らとていふとていふとていふとていふとて



出羽内藏国田川郡

上春興世五鹿野氏

鹿野喜藏

天保元年十二月

